

平成 2 7 年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」

大阪市立旭陽中学校

平成 2 8 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○リーダーを中心とした校内(学年・分掌・委員会)組織の強化に取り組んで3年目、一定の成果が見える。また、校内施設の整備による生徒の学習環境の改善も段階的にすすんでいる。そして、教職員の研修体制の一層の強化をすすめ、生徒のあらゆる課題に対し、全教職員が一枚岩となって取り組む体制を完成させる。

中期目標

【視点 学力の向上】

- ① 平成27年度末の生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の85%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ② 平成27年度末の保護者アンケートにおける「授業が楽しくわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の50%以上にする。（カリキュラム改革関連）

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 平成27年度全国学力・学習状況調査における「自分によいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を平成24年度より3%向上させる。（カリキュラム改革関連）
- ② 平成27年度末の生徒アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の90%以上にする。（カリキュラム改革関連）

【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 平成27年度末の生徒アンケートにおける「昼食をしっかりと摂る等、健康に気を付けている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ② 平成27年度末の生徒アンケートにおける「運動することは楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の80%以上にする。（カリキュラム改革関連）

【視点 教職員の資質・能力の向上】

- ① 平成27年度末の生徒アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ② 平成27年度末の生徒アンケートにおける「先生は教え方にいろいろ工夫をしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の80%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ③ 平成27年度末の生徒アンケートにおける「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。（マネジメント改革関連）

【視点 学校組織の活性化】

- ① 平成27年度末の保護者アンケートにおける「学校は雰囲気が高く、子どもたちは生き生きとしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を全体の80%以上にする。（マネジメント改革関連）
- ② 平成27年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を全体の80%以上にする。（ガバナンス改革関連）

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ① 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の 85%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ② 平成 27 年度末の保護者アンケートにおける「授業が楽しくわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の 50%以上にする。 (カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 平成 27 年度全国学力・学習状況調査における「自分によいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を平成 24 年度より 3%向上させる。 (カリキュラム改革関連)
- ② 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の 90%以上にする。 (カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「昼食をしっかり摂る等、健康に気を付けている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の 70%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ② 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「運動することは楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)

【視点 教職員の資質・能力の向上】

- ① 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の 70%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ② 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「先生は教え方にいろいろ工夫をしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ③ 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の 70%以上にする。 (マネジメント改革関連)

【視点 学校組織の活性化】

- ① 平成 27 年度末の保護者アンケートにおける「学校は雰囲気が良く、子どもたちは生き生きとしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を全体の 80%以上にする。 (マネジメント改革関連)
- ② 平成 27 年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を全体の 80%以上にする。 (ガバナンス改革関連)

3 本年度の自己評価結果の総括

【視点 学力の向上】

- ・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合が全体の 68.4%で、昨年の 60%を上回っている。
- ・平成 27 年度末の保護者アンケートにおける「授業が楽しくわかりやすい」の項目について、「当てはまる（ど

ちらかといえはまる)」と答える生徒の割合は全体の 51.9%と、目標の 50%を上回っている。

→ICT 機器を活用した研究授業や、協同学習の研究、教科会の充実により、少しずつ授業力が向上している。更に生徒がわかりやすい授業研究を進める必要がある。

【視点 道徳心・社会性の育成】

・平成 27 年度全国学力・学習状況調査における「自分によいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合は 68.9%と全国を上回っている。

・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合が全体の 88.1%と、昨年の 83.9%を上回っている。

→年度目標にはわずかに達しなかったが、全国を上回る項目もある。自尊感情が高いのは、縦割りを取り組む体育大会や生徒会が主体的に取り組んできた成果である。「道徳」を計画的に取り組み、確かな人権感覚を育成する必要がある。

【視点 健康・体力の保持増進】

・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「昼食をしっかり摂る等、健康に気を付けている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の 71.1%で目標を達成している。

・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「運動することは楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の 80.6%で目標を達成している。

→ 食育授業、保健だよりなどにより健康への意識を高めてきた。「運動することが楽しい」と思う生徒がさらに増えるように、授業研究を進める必要がある。

【視点 教職員の資質・能力の向上】

・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の 77.3%と目標の 70%を上回っている。

・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「先生は教え方にいろいろ工夫をしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の 83%と目標の 80%を上回っている。

・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の 67.1%と昨年の 63.5%を上回っている。

→「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする」の項目の肯定的な割合が高いのは、ICT 機器を活用した協同学習で、多く自分や班の意見をプレゼンテーションする授業の効果である。更に、先進的取り組み校として、研究を進めていく必要がある。しかし、「親身になって応じてくれる先生がいる」項目の肯定的な割合は毎年増えているが、更にきめ細やかな生徒指導、生徒理解を進める必要がある。

【視点 学校組織の活性化】

・平成 27 年度末の保護者アンケートにおける「学校は雰囲気良く、子どもたちは生き生きとしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合が全体の 80.5%と目標を達成している。

・平成 27 年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を全体の 72.9%とわずかに目標を下回った。

→保護者、生徒へのきめ細やかな指導は徐々に全教職員に浸透しつつあるが、まだ不十分なところもある。様々な機会を通じて、全教職員が丁寧な対応で信頼される学校づくりができるように、中堅教員中心に、若手教員の育成を継続していく必要がある。

大阪市立旭陽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【視点 学力の向上】

年度目標	達成状況
①平成27年度末の生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の85%以上にする。 （カリキュラム改革関連） ②平成27年度末の保護者アンケートにおける「授業が楽しくわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の50%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【習熟度別授業】 国語・数学・英語において、計画的に習熟度別授業を実施し個に応じた指導を行う。（カリキュラム改革関連） 指標 年間の3分の1以上のTT授業、その3分の1以上の習熟度別授業をおこなう。	B
取組内容②【ICT機器の活用】 ICT機器を活用した学習形態を構築し、授業内容の充実（わかりやすい授業）を図る。（カリキュラム改革関連）（マネジメント改革関連） 指標 全教科においてICT機器を活用し、学習形態にあったICT機器の活用方法を考案する。	A
取組内容③【言語力の育成】 各教科で協同学習を導入した授業を実践し、言語活動の充実を図る。（グローバル改革関連）（マネジメント改革） 指標 協同学習を授業に導入し、読解・記述・コミュニケーションなど多様な言語活動を充実させる。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・年度目標①<生徒アンケート「授業がわかりやすい」について、当てはまる（どちらかといえば当てはまる）> ⇒全体で68.4%（目標85%以上をかなり下回り未達成。昨年度の達成状況60.0%よりは上回った。） ・年度目標②<保護者アンケートにおける「授業が楽しくわかりやすい」> ⇒全体で51.8%（目標50%以上を達成） ・年度目標の達成に向けた取組【習熟度別授業】は国語と数学では学期ごとに学年を変えて実施し、英語では学期ごとに実施した。また、夏期休暇中の補充学習など個に応じた指導を行った。 【ICTの活用】では、全教科で公開授業を実施し、本年度もその成果を全市に向けて発信することができた。 【言語力の育成】では、協同学習が多くの教科でなされており、言語活動を充実させることができた。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・未達成であった年度目標①について、生徒が主体的に学ぶ授業をさらに展開していくことが必要である。 ・学習内容の定着を図るため、定期的に宿題を課すなど家庭学習の充実をはかる。 	

大阪市立旭陽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【視点 学力の向上】国語科

年度目標	達成状況
①平成27年度末の生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の85%以上にする。 （カリキュラム改革関連） ②平成27年度末の保護者アンケートにおける「授業が楽しくわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の50%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【習熟度別授業】 計画的に習熟度別授業に取り組み、活用して生徒一人一人の個に応じた指導を実施し、学習の効率を高める。（カリキュラム改革） 指標 年間の3分の1以上のTT授業、その3分の1以上の習熟度別授業をおこなう。	B
取組内容②【ICT機器の活用】 ICT機器を学期に一回以上活用することにより、わかりやすい授業に取り組む。 （カリキュラム改革）（マネジメント改革） 指標 教科会や空き時間を活用して教材研究につとめ全員がICT機器を活用した授業をする。	A
取組内容③【基礎基本の定着】 基礎学力としての漢字力の徹底と語彙の定着を図り、知識力の向上を促す。加えて、自ら学ぼうとする態度を育てる。（カリキュラム改革） 指標 単元ごとに、必要に応じて、漢字と意味調べのプリント学習をおこなう。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を授業で活用することにより、わかりやすい授業に取り組むことができた。 ・単元ごとに、必要に応じて、漢字と意味調べのプリント学習を行えている。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業の取り組み内容をさらに充実させたい。 ・授業でのICT機器の使用回数を増加させたい。 ・教材研究に努め、有効なICT機器の使用方法を考えていきたい。 	

大阪市立旭陽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【視点 学力の向上】社会科

年度目標	達成状況
①平成27年度末の生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の85%以上にする。 （カリキュラム改革関連） ②平成27年度末の保護者アンケートにおける「授業が楽しくわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の50%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【 ICT機器を活用した教育の推進 】 生徒の興味、関心を引き出し、わかりやすい授業にするために、デジタル教科書や映像資料を活用する。（カリキュラム改革）（マネジメント改革） 指標 社会科担当教師で、資料を見せ合う研修会を学期に1回もつ。	A
取組内容②【 言語力や論理的思考能力の育成 】 授業の中で、生徒に自分の意見を発表したり、記述したりする機会を増やす。 （カリキュラム改革） 指標 各学年・各クラスで、授業における発表・記述の機会を設ける。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度以上に、全員がデジタル教科書やタブレットなどのICT機器を使用し、わかりやすい授業にするための工夫を行い、互いの成果も交流する機会を増やした。 ・各学年とも、授業や家庭学習の課題を通して、自分の意見を発表したり記述したりする機会を増やした。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・入試の傾向にも対応して、さらに、思考力を深め、記述の能力を高めていきたい。 	

大阪市立旭陽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【視点 学力の向上】数学科

年度目標	達成状況
①平成27年度末の生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の85%以上にする。 （カリキュラム改革関連） ②平成27年度末の保護者アンケートにおける「授業が楽しくわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の50%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【ICT機器を活用した教育の推進】 ICT機器を活用して授業を展開していく。（カリキュラム改革） 指標 70%以上の授業で活用する。	A
取組内容②【習熟度別少人数授業の充実】 各クラスを2分割して標準コース、基礎コースに分けて授業を行う。 （カリキュラム改革） 指標 3分の1以上の授業は習熟度別で行う。	B
取組内容③【夏季休業中の学力補充】 各学年で期間や曜日を決めて行う。（カリキュラム改革） 指標 2日以上行う。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を使用することにより関数・図形分野では視覚的にわかりやすい授業が展開できた。また、タブレットを用いた授業にも取り組んだ。 ・各学年で期間を決め、学力補充ができた。
次年度への改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数授業の再検討。

大阪市立旭陽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【視点 学力の向上】理科

年度目標	達成状況
①平成27年度末の生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の85%以上にする。 （カリキュラム改革関連） ②平成27年度末の保護者アンケートにおける「授業が楽しくわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の50%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【ICT機器を活用した教育の推進】 ICT機器を取り入れた授業の頻度を高くする。（カリキュラム改革） 指標 授業数の7割でICT機器を活用する。	A
取組内容②【理科教育の充実】 実験・観察を積極的に取り入れ、器具の操作を身につけさせる。（カリキュラム改革） 指標 教科書掲載の実験・観察のうち8割に取り組む。	A
取組内容③【言語活動の充実】 生徒同士のコミュニケーションを活用した協同学習に取り組む。 （カリキュラム改革） 指標 授業数の3割は協同学習を取り入れる。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①自作教材の提示や実験レポートの作成、調べ学習や協同学習などでICT機器を使用した授業に8～9割取り組んでいる。 ②教科書に掲載されている実験については9割近く行っている。学校で行えない実験については、ICT機器を活用し、演示したり、ビデオ教材を利用している。また、実験器具もそろそろようになり、より多くの実験ができるようになった。 ③各単元につき2～4時間は協同学習を実施している。教え合いや発表など、生徒同士のコミュニケーションを促し、課題に取り組んだ。	
次年度への改善点	
①次年度以降、現在取り組んでいるICT機器を活用した授業が継続して行えるように方法を考えたい。 ②今後も、実験器具を計画的に購入・整理し、円滑に実験ができるようにしたい。 ③各学年で取り組んでいる協同学習の資料を共有し、評価方法などの改善点を検討したい。	

大阪市立旭陽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【視点 学力の向上】音楽科

年度目標	達成状況
①平成27年度末の生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の85%以上にする。 （カリキュラム改革関連） ②平成27年度末の保護者アンケートにおける「授業が楽しくわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の50%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【言語力や論理的思考能力の育成】 楽曲の雰囲気やそれぞれの音楽の持つ特徴を言語活動を通じて表現させる。 （カリキュラム改革） 指標 鑑賞授業の取り組みを年2回以上実施する。	A
取組内容②【ICT機器を活用した教育の推進】 ICT機器を利用し、歌唱法の技術向上に活かす。（カリキュラム改革） 指標 全学年、合唱コンクールの練習で実施する。	B
取組内容③【自主学習習慣の確立】 精選された楽曲の中から、アルトリコーダーの基礎的な運指・奏法を理解させる。 （カリキュラム改革） 指標 全学年、年1回以上実施する。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> 合唱コンクールは学年に応じて進められている。 鑑賞授業では、ICT機器を使用することで協同学習に取り組めた。 アルトリコーダーでは個別に学習することや練習することで、それぞれのレベルにあった学習ができた。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> 歌唱だけでなく、鑑賞の授業で協同学習を取り入れていきたい。 今後もICT機器を使用し、生徒にとってわかりやすく積極的に参加しやすい授業作りに努めていく。 	

大阪市立旭陽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【視点 学力の向上】美術科

年度目標	達成状況
①平成27年度末の生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の85%以上にする。 （カリキュラム改革関連） ②平成27年度末の保護者アンケートにおける「授業が楽しくわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の50%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【自己表現の育成】 制作過程において、自分の表現したい事を探求する。（カリキュラム改革） 指標 情報機器や資料を活用し、自分の中のイメージを膨らませ、表現する。	B
取組内容②【ICT機器を活用した教育の推進】 写真や映像、実物を用いて取り組む教材の興味付けや、制作手順の理解向上を図る。 （カリキュラム改革） 指標 授業の導入・制作過程・作品鑑賞に活用し、共通理解を図る。	A
取組内容③【鑑賞教育の充実】 鑑賞を通じて、互いの個性の理解・意見の交換・共感する心を育む。 映像や写真を鑑賞し、表現の幅を広げる。（カリキュラム改革） 指標 単元ごとに、自分や他者の作品を見て感じたことの発表・作品鑑賞。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①まだまだ目的にあった資料を集めることができていない生徒がいるため、構想でつまづくことが多い。 ②今後もICT機器を活用し、生徒目線でわかりやすい資料の提示に努めていきたい。 ③鑑賞の機会を増やし、作品を自由に解釈することはできたが、自身の作品に還元するところまでは至っていない。

次年度への改善点
①資料集めの重要性を理解させ、作品制作につなげる。 ②興味づけや、表現の幅を広げるために今後もICT機器を積極的に取り入れていきたい。 ③鑑賞では作品を自由に解釈するだけでなく、自身の作品に活かしたり、作品の本質に迫れるよう、知識理解の向上に努めていく。

大阪市立旭陽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【視点 学力の向上】技術・家庭科

年度目標	達成状況
①平成27年度末の生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の85%以上にする。 （カリキュラム改革関連） ②平成27年度末の保護者アンケートにおける「授業が楽しくわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の50%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【ICT機器の活用】 調理器具、ミシン、工具使用時の説明時にICT機器を使用する。（カリキュラム改革） 指標 調理器具、ミシン、工具説明時に2時間以上ICT機器を使用する。	B
取組内容②【ものづくりへの意欲】 授業内容を精選し、実習を取り入れ、ものづくりに興味を持たせる。 （カリキュラム改革） 指標 全学年、1回実習を実施する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・ミシン、調理器具、工具の使い方の説明時に画像を映写し、積極的に使用した。 ・トートバッグ製作において、実習を取り入れミシンにも慣れて、ものづくりに興味を持たせることができた。 ・実習を終えて、部品、工具の取り扱いを学び、ものづくりへの関心を高めた。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・さらにICT機器を利用し、ものづくりと道具の取り扱いへの理解を深めていけるように工夫する。 	

大阪市立旭陽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【視点 学力の向上】英語科

年度目標	達成状況
①平成27年度末の生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の85%以上にする。 （カリキュラム改革関連） ②平成27年度末の保護者アンケートにおける「授業が楽しくわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の50%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【ICT機器を活用した教育の推進】 ICT機器の使用頻度を高め、長文読解力、音声指導の充実を図る。 （カリキュラム改革） 指標 年間授業数の7割以上でICT機器を使用する。教科で各学期1回、研修会を行う。	A
取組内容②【習熟度少人数制授業の充実】 少人数授業を実施し、個々の能力に応じたきめ細やかな指導を行う。 （カリキュラム改革） 指標 年間の3分の1以上のTT授業や少人数授業を行う。	B
取組内容③【C-NETによる授業の充実】 ネイティブの授業を受け、表現力を向上させる。（グローバル改革） 指標 各学年、年間通して10時間以上、C-NETとの授業を行う。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①デジタル教科書を中心に音読指導や本文解説の際に使用した。タブレットは、授業内容に応じて活用範囲を広げており、研修にてタブレットの活用方法を共有した。 ②TT授業は全学年において週1時間実施した。単元内容に応じて少人数授業を実施した。 ③1年生では週1回、C-NETによる授業を実施し、4技能の向上に努めた。2・3年生は後期に授業回数を増やした。
次年度への改善点
<ul style="list-style-type: none"> 文法の確認や、文法事項を使った発表（スピーチ）をするためにタブレットを積極的に使い、生徒のタブレット使用頻度を高める。 C-NETによる授業を活発に行えるよう、また、グループによる英語の朗読を効果的に行うために、少人数授業の回数を増やす。また、その内容を充実させる。 スピーキング力の向上を目指し、C-NETによる授業を2・3年生で多く実施する。

大阪市立旭陽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【視点 道徳心・社会性の育成】生活指導の重点

年度目標	達成状況
①平成27年度全国学力・学習状況調査における「自分によいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を平成24年度より3%向上させる。 （カリキュラム改革関連）	B
②平成27年度末の生徒アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の90%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な生活習慣の確立】 清掃活動を充実させ、言葉遣い、服装を正させる。（カリキュラム改革関連） 指標 部活や学期はじめに清掃を行い、服装や頭髪の確認をする。	A
取組内容②【規範や価値観の育成】 全校朝礼・学年集会により、リーダーの育成を図る。（グローバル改革関連） 指標 集会の進行を委員長中心にする。	A
取組内容③【長期欠席・不登校生への対応】 電話や家庭訪問を密に行う。課題を見つけ共有する。（学校サポート改革関連） 指標 生活指導部会で毎月、長期欠席・不登校生の情報を共有する。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①学期末や学期初めの集会で服装、頭髪の確認ができた。長期休暇中も気になる生徒の頭髪状況の確認などもできた。 ②学年集会では学年ごとに委員長や生活委員を中心に集会を実施できた。 ③各学年の生活指導代表で週1回集まり、情報共有できた。また、各担任の協力も有り不登校生の数も減っている。	
次年度への改善点	
・次年度は各学年でできたことを学校全体の場でもできるようにしていきたい。集会など学年ごとでできることや、生徒のリーダーシップなどを全校集会など全校が集まる時にも発揮できるように指導していきたい。 ・生徒と先生、先生同士の情報共有や繋がりが薄く感じる。登下校での声掛けや生徒や先生とのコミュニケーションが、学年でまたは全体でできるような環境づくりに取り組む。	

大阪市立旭陽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【視点 道徳心・社会性の育成】 人権教育の重点

年度目標	達成状況
①平成27年度全国学力・学習状況調査における「自分によいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を平成24年度より3%向上させる。（カリキュラム改革関連） ②平成27年度末の生徒アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の90%以上にする。（カリキュラム改革関連）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【部落問題教育】 部落問題を正しく理解させ、生徒が自ら考えて行動し、一人一人が輝く集団の育成に努める。（カリキュラム改革関連） ----- 指標 教職員への研修を行い、年間各学年2時間以上の実践を行う。	B
取組内容②【平和教育】 夏季休業中に平和登校日を実施し、平和について深く考えさせる。（カリキュラム改革関連） ----- 指標 年に一度平和登校日を設け、平和への思いを深める。	A
取組内容③【外国人教育】 多文化共生の視点から、他の文化も尊重する取り組みを進める。（グローバル改革関連） ----- 指標 各学年において外国人教育の授業を2時間以上実践する。	B
取組内容④【特別支援教育】 生徒の実態把握に努め、個の特性に応じた支援の取り組みを進める。また、道徳の授業を通して、障がいの理解や自尊感情を養うように努める。（カリキュラム改革関連） ----- 指標 情報共有のための研修会を年3回以上開く。各学年、2時間以上の取り組みを実践する。	A
取組内容⑤【男女共生教育】 男女共生教育の推進体制の確立に努める。（グローバル改革関連） ----- 指標 各学年で男女共生教育の授業を2時間以上実践する。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒について情報の共有に努めている。 ・学年で計画的に取り組む、実施した。 ・指導後の生徒の様子を教職員間で見守っている。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・指導案と3年間を見通した実践計画の検討。 ・各学年での実践内容を学校全体で把握する方法の工夫。 ・生徒の現状に合った実践計画の作成。 ・該当生徒の状況を交流できる機会を設ける。 	

大阪市立旭陽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【視点 健康・体力の保持増進】保健管理・指導の重点

年度目標	達成状況
平成27年度末の生徒アンケートにおける「昼食をしっかり摂る等、健康に気を付けている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。 (カリキュラム改革関連)	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【生活習慣の確立】 自らの生活習慣を考え、健康的な生活をおくれるようにする。(カリキュラム改革関連)	B
指標 保健だよりの発行、保健委員によるポスターで健康についての情報の発信、啓発食育に関する学習を年3回以上行う。	
取組内容②【校内美化に取り組む姿勢を養う】 校内を美しく保つことの意義を考え、美化に取り組む。(マネジメント改革関連)	A
指標 保健委員による月2回の清掃点検	
取組内容③【緊急対応】 緊急対応への意識を高める (マネジメント改革関連)	A
指標 AEDの設置、点検 全職員への研修を実施し、緊急対応に備える。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・年度目標の「昼食をしっかり摂る等、健康に気を付けている」の項目について、あてはまる（どちらかといえばあてはまる）の項目で70.1%であった。
- ・①食育に関して、食育通信を毎月配布、食育に関する指導案の配布も行った。また、1年生では講師を招いて講話を行った。各学年、食育通信の配布時や昼食指導時に指導を行っているものの、1年生以外では、改めて学習する機会をとらなかった。
- ・②清掃点検は月に二度、定期的に行った。
- ・③職員を対象に救命講習を4月に行った。

次年度への改善点

- ・年度目標を達成したものの、給食を実施している一年生で66.4%、二年生で58.3%と割合が低い。給食実施により、この割合が低くならぬよう、食事の大切さ、健康との関わりについて、引き続き食育指導を行うとともに、給食メニューの充実なども含め関係機関にはたらきかける必要がある。
- ・来年度より全学年で給食の実施が始まるのに向け、配膳・後片付けの導線、教員の配置、校時の検討などを更に検討していく必要がある。

大阪市立旭陽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【視点 健康・体力の保持増進】体育指導の重点

年度目標	達成状況
平成27年度末の生徒アンケートにおける「運動することは楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【体力向上への支援】 授業時に体力づくりのサーキットトレーニングを取り入れる。 各種目の基本的な動きを習得させる。(カリキュラム改革関連)	B
指標 平成27年度新体力テストの結果で、6種目以上で全国平均を上回る。 各種目での実技テスト点で判断。	
取組内容②【体育的活動の充実】 体育的行事を充実させる。(カリキュラム改革関連)	A
指標 体育的行事を年2回以上行う。	
取組内容③【体育科授業の充実】 授業で学んだことについてまとめたり、そこから新たな運動課題を見つけたり、調べ学習をしたり、自ら学ぶ態度を育成する。(カリキュラム改革関連)	A
指標 単元ごとにレポート課題を提出させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・年度目標は、80.2%で達成したが、新体力テストの結果からも、特に女子で運動嫌いとの二極化も進んでいるのが現状である。 ・取組内容①では、新体力テストの結果で全国平均を上回る種目は、男子で6種目だったが、女子では5種目にとどまった。 ・取組内容②では、各学年で球技大会を1回ずつ行った。 ・取組内容③では単元ごとのまとめのプリントやレポート課題の回数も増やし、授業で学んだことから発展して、新たな運動課題を見つけようとする姿勢も出てきた。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの結果では、男女とも柔軟性の項目が全国平均を下回る年が続いている。授業時の体力づくりの中で、重点的に取り組ませたい。 ・体育分野では、器械運動、ダンス、柔道などでICT機器を活用したが、球技などの種目でも戦術・作戦面でも効果的に活用していきたい。 	

大阪市立旭陽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【視点 教職員の資質・能力の向上】研修の重点

年度目標	達成状況
①平成27年度末の生徒アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	B
②平成27年度末の生徒アンケートにおける「先生は教え方にいろいろ工夫をしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の80%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	
③平成27年度末の生徒アンケートにおける「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。 （マネジメント改革関連）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【各種研修】 生徒や学校の実態に即した課題の校内研修を実施する。（マネジメント改革関連） 指標「人権教育」「生徒指導」「特別支援教育」「救命救急法」「協同学習」などの研修を計画的に実施する。	A
取組内容②【研究授業】 研究授業および研究協議会を通して、授業改善・指導力の向上を図る。（カリキュラム改革関連）（マネジメント改革関連） 指標 ICT 研究公開授業をすべての教科でおこなう。	A
取組内容③【公開授業】 公開授業週間を設け、相互の授業参観を通して、授業改善・指導力の向上を図る。（マネジメント改革関連） 指標 公開授業週間中に2回以上の公開授業を全員がおこなう。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・年度目標①生徒アンケート「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」⇒全体で77.3%（昨年度70.6%）（目標70%以上を達成） ・年度目標②生徒アンケート「先生は教え方にいろいろ工夫をしている」⇒全体で83.0%（目標80%以上を達成） ・年度目標③生徒アンケート「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」⇒全体で67.1%（昨年度63.5%）（目標70%以上をわずかに下回り未達成） ・取組内容①【各種研修】では、予定していた研修をすべて実施することができた。②【研究授業】では、全教科で研究授業を実施した。【公開授業】では、大半の教員が2回の公開授業を実施した。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・【各種研修】研修内容の充実をはかり、生徒理解を深め、生徒が安全・安心に過ごせるように努める。 ・【研究授業】【公開授業】については、全教科での実施を継続する必要がある。 	

大阪市立旭陽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【視点 学校組織の活性化】

年度目標	達成状況
①平成27年度末の保護者アンケートにおける「学校は雰囲気良く、子どもたちは生き生きとしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を全体の80%以上にする。 (マネジメント改革関連) ②平成27年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を全体の80%以上にする。 (ガバナンス改革関連)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【学力向上】 習熟度別少人数授業等の指導工夫・改善に積極的に取り組む。 先進的取り組み校として、ICT機器を活用した協同学習に取り組み、授業方法の工夫改善に取り組む (マネジメント改革関連) 指標 保護者・生徒の学習に関わる評価の向上	A
取組内容②【学習環境整備】 学内の施設・整備に努め、生徒の学習環境の改善に取り組む。 学校元気アップ地域本部事業を中心に、地域の支援を積極的に取り入れる。 (ガバナンス改革関連) 指標 元気アップ地域事業ボランティアとの交流を増やす。	A
取組内容③【小中連携】 校区小学校との課題共有により、学力向上や人権教育等の指導法の工夫・改善に積極的に取り組む。 (マネジメント改革関連) 指標 小中連携の取り組みを増やす。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・保護者アンケートにおける「学校は雰囲気良く、子どもたちは生き生きとしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合が全体の80.5%と、目標を達成している。
- ・学校教育 ICT 事業モデル校先進的取り組み校として、年2回の公開授業、1回の研究授業・研究協議を実施し、ICT機器を活用したわかりやすい授業研究、協同学習の研究を進め、教職員の授業力向上を図ることができた。

次年度への改善点

- ・保護者アンケートにおける「学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を全体の72.9%と、目標を達成できなかった。さらにきめ細やかな指導を全教職員が徹底できるよう中堅教員中心に研修を進め、指導を徹底していく。

大阪市立旭陽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【視点 学校組織の活性化】第1学年

年度目標	達成状況
①平成27年度末の保護者アンケートにおける「学校は雰囲気良く、子どもたちは生き生きとしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を全体の80%以上にする。 (マネジメント改革関連) ②平成27年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を全体の80%以上にする。 (ガバナンス改革関連)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【 人権を尊重する教育の推進 】 生徒1人1人を大切にし、自分で考え、自分から行動できる態度を養う。 (カリキュラム改革) 指標 年に10回の道徳教育、年に5回の人権教育を行う。	A
取組内容②【 家庭と学校の情報共有化の向上 】 家庭学習の充実を図り、学校の様子や行事を家庭に知らせ、共通理解を図る。 (マネジメント改革) 指標 月に15回の家庭学習課題を出して確認する。月に5回の学年通信を発行する。	B
取組内容③【 学校・学年行事の充実 】 学級・学年・学校と、生徒に目標と役割を理解させ、自主的に行事を運営させる。 (カリキュラム改革) 指標 学年集会のリハーサルを週に1回行う。学年行事のリハーサルを必ず行う。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・年に10回の道徳教育、5回の人権教育を行うことができた。
- ・自学自習ノートを作成し、家庭学習に月に20回以上取り組むことができた。
(保護者アンケート肯定的回答：72.4%)
- ・月に5回学年通信を発行できなかったが、学校の様子を伝えることができた。
- ・毎週の学年集会のリハーサルを行い、生徒主体で活動することができた。

次年度への改善点

- ・道徳教育の充実を図るため、計画や実施方法を複数で検討するようにする。
- ・引き続き教員間の連携を密にとって、丁寧でねばり強い指導をできるようにする。
- ・学年で取り組んだ活動をより深めるために、生徒の感想や振り返りを積極的にフィードバックするように努める。

大阪市立旭陽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【視点 学校組織の活性化】第2学年

年度目標	達成状況
①平成27年度末の保護者アンケートにおける「学校は雰囲気良く、子どもたちは生き生きとしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を全体の80%以上にする。 (マネジメント改革関連) ②平成27年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を全体の80%以上にする。 (ガバナンス改革関連)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【 人権を尊重する教育の推進 】 学校生活全般を通して、他者を思いやり、仲間を大切に作る心の育成に努める。 (カリキュラム改革)	B
指標 学年が主体となった人権の取り組みを年5回以上行う。	
取組内容②【 家庭と学校の情報共有化の向上 】 家庭に学校での生徒の様子や行事を知らせ、共通理解を図る。(ガバナンス改革)	B
指標 月に1度以上、学年だよりや学級だよりを出し、生徒の様子や学校行事を伝える。	
取組内容③【 学校・学年行事の充実 】 生徒が主体となった学年・学校行事を実践する。(カリキュラム改革)	A
指標 各学期2回以上、生徒が主体となった学校・学年行事に取り組む。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> ・①については、3学期末に特別支援教育を行う予定であり、目標通りに実施できる見込みである。 ・②については目標通りに実施した。 ・③については、校外学習、職場体験学習など、目標を上回って実施できた。
次年度への改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・年度目標の達成に向けて、人権学習に限らず、日々の指導においてこれまで以上に思いやりを持っていく指導していく必要がある。また、学年だよりの発行においても回数を増やしていく必要があると思われる。

大阪市立旭陽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【視点 学校組織の活性化】第3学年

年度目標	達成状況
①平成27年度末の保護者アンケートにおける「学校は雰囲気良く、子どもたちは生き生きとしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を全体の80%以上にする。 (マネジメント改革関連) ②平成27年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を全体の80%以上にする。 (ガバナンス改革関連)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【人権を尊重する教育の推進】 学校生活全般を通して、他人を思いやり、仲間を大切に作る心の育成に努める。 (カリキュラム改革)	A
指標 年に12回以上の道徳教育、5回以上の人権教育の取り組みを行う。	
取組内容②【家庭と学校の情報共有化の向上】 家庭に学校での生徒の様子や行事を知らせ、共通理解を図る。(ガバナンス改革)	A
指標 月に2度以上、学年通信を出し、生徒の様子や学校行事を伝える。	
取組内容③【学校・学年行事の充実】 外部機関や卒業生などから進路に関する情報を収集し、生徒が主体的になって自分の進路について考える機会をもたせる。(ガバナンス改革)	A
指標 学期に2度以上、進路についての取組を行なう。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> ・年度目標①については上回り、②についてはおおむね達成できていると考える。 ・指標①については5回以上の人権の取り組みに加え、担任のオリジナルの深みのある道徳ができた。 ・指標②については学年通信がNo.30(2/1 現在)なので、月に2度を上回ることができた。 ・指標③については学期に2度以上取り組みを行い、学年通信で情報伝達や、担任の先生の細やかな進路指導で、生徒が主体的になって自分の進路を考える機会を大いにもつことができた。
次年度への改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教科化に向けて今年度は年間12回の実施であったが、後になればなるほど担任同士の情報交換や、授業研究で深みのある内容へと変わっていったように思う。最初からそれができるように工夫するともっとよりよくなると思う。また、教科化に向けて、計画や実施方法を検討する必要があると考える。